

骨密度測定について

放射線技師 緒方 裕子

日本では、人口の急速な高齢化に伴い骨粗しょう症の患者が年々増加しつつあり、その数は現時点では1300万人と推測されています。骨粗しょう症では、椎体(背骨)・前腕骨(手首から肘にかけての骨)・大腿骨近位部(太ももの付け根の骨)などの骨折が生じやすく対策が医療のみならず社会的にも重要な課題となっています。



骨粗しょう症による影響

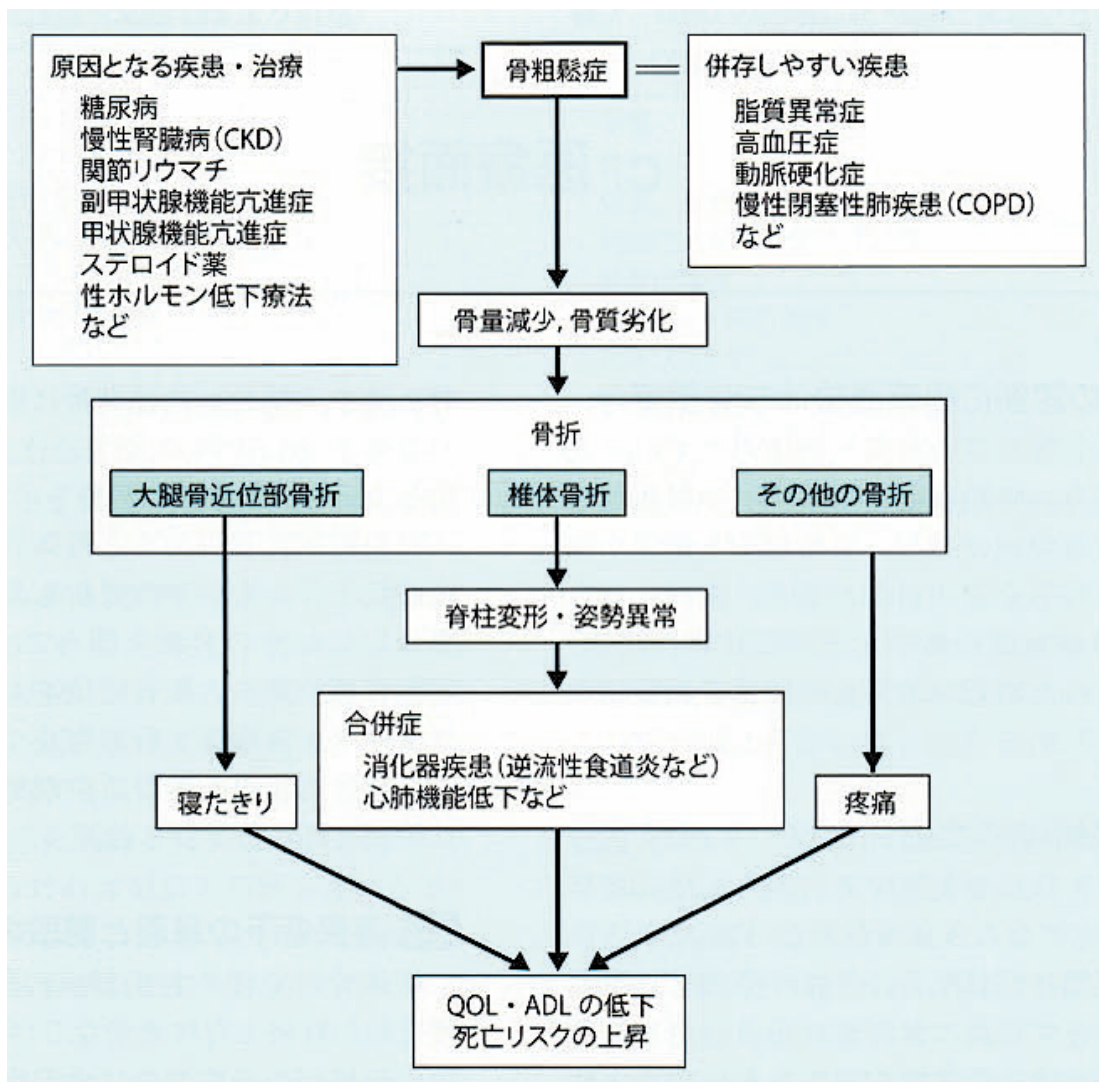
- ・骨折が生じやすい→生活機能や生活の質を低下させる
 - ・長期的には骨折の有無に関わらず、死亡リスクを上昇させる
- (『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版』参考・図引用)

当院では、2017年11月にX線骨密度測定装置 Horizon を導入しました。

導入前は、中手骨(手の骨)のレントゲン写真を撮り、外部の機関に解析を依頼していたため、解析結果が出るまでに2週間程かかっていましたが、導入後は、測定後すぐに解析が可能となり、15分程で解析結果をお渡しできるようになりました。

骨密度測定装置

基本の測定方法は、装置のベッドに仰向けで寝た状態で、腰椎と大腿骨を測定します。腰椎や大腿骨の手術をされて金属が入っている場合でも、金属の部分を除いて解析を行うことが可能です。現在、骨密度検査の依頼は、整形外科が8割程ですが、整形外科以外を受診された場合でも、骨密度検査を受けることができます。当院かかりつけ医や、各科の担当医師にご相談ください。



(次頁につづく)